資料-4

県内の海岸に関する住民会議の実績

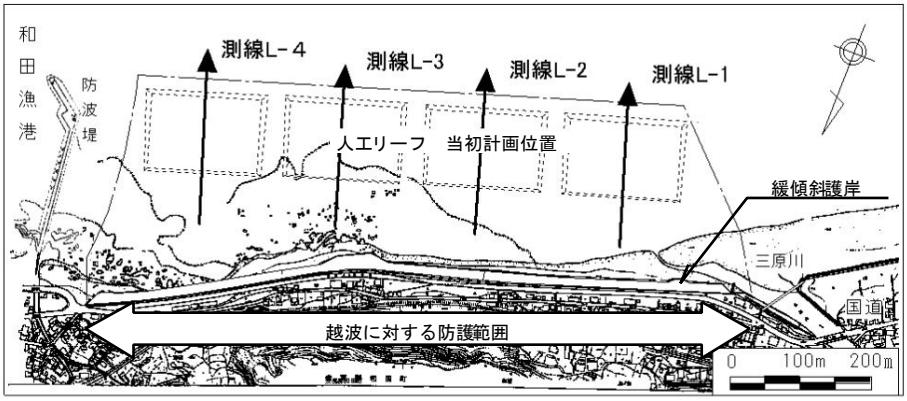
九州大学大学院准教授
清　野　　聡　子

県内の海岸に関する住民会議

- 「和田町：白渚海岸を語る会」
  （H11～H14、6回開催）
- 「千葉東沿岸海岸保全基本計画」検討委員会・公聴会
  （H14～H15、公聴会はH15.2月実施　：　千葉県HP参照）
- 「鴨川市：鴨川沿岸・海岸づくり会議」
  （H15～H19、6回開催　：　鴨川市HP参照）
- 「鋸南町：勝山漁港海岸・海岸づくり会議」
  （H15～H16、4回開催）
- 「館山市：那古船形海岸・海岸づくり会議」
  （H20～H21、3回開催（継続中））
- 「南九十九里浜養浜計画　技術検討会・策定会議」
  （H19～H21、技術検討会3回、策定会議2回、策定会議幹事会5回）

「白渚海岸を語る会」の事例

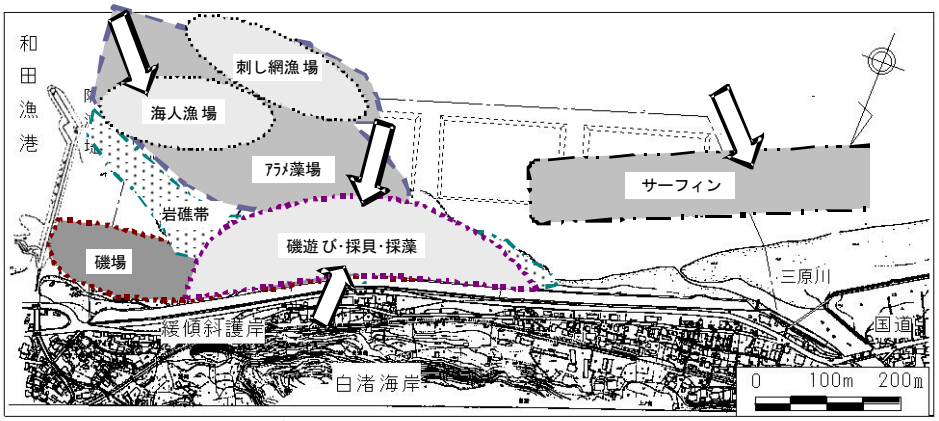
当初計画での海岸保全の考え方



緩傾斜護岸完了直後に越波が発生、国道が通行止め
（沖合の人工リーフは未施工）

「白渚海岸を語る会」の様子

海岸環境のゾーニング vs. 地元がこだわる場所



：特に意見が多い場所

ゾーニング手法による環境調査結果

海士３名
採取者６名
海士２名
海士３名
海士５名
海士２名
磯遊び１３名
：ワカメ採取が行われていた範囲
：ヒジキが干出した範囲
：海士or磯物採取者の移動範囲
：磯遊び利用者の範囲
：サーファー（磯場近傍のみ抽出）
ポインティング手法を用いた調査結果
調査実施　2002年4月29日　午前11時～12時（大潮干潮）

防 護：1次対策工の設置
２００２年１０月４日撮影

白渚海岸での成果

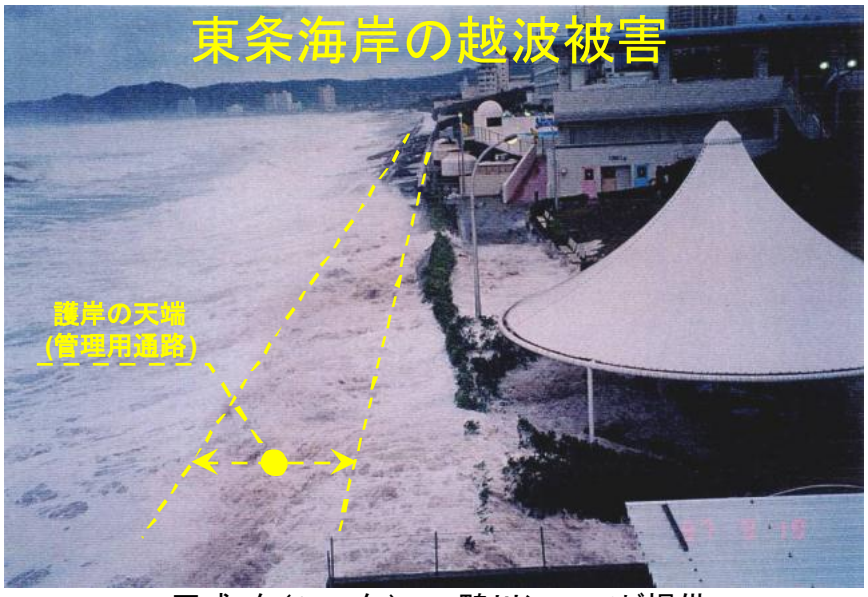
項　目	得られた成果	成果の意義
防　護	・越波の安全度向上（30年確率波） ・地域特性に合わせた柔軟な対応（結果：コスト縮減）	・防護、環境、利用を調整した海岸保全計画の実現 ・海岸保全上の技術的課題（越波、環境評価）の明確化と改善手法の提案
環境、利用	・磯場環境、海域利用の現状が保たれた	・自然環境、利用との共生
地元合意	・多くの住民の合意を得た	・海岸保全への理解 ・行政不信の解消と、新たなコミュニケーションの形成 ・県海岸行政の意識改革 ・合意形成のあり方の提案

合意形成会議の過程で得られた

合意が得られた要因

分　類	キーワード
会議の進め方	・真面目な参加者が多かった（結果論） ・参加しやすい雰囲気づくり（土日開催、発言しやすい会場運営）
参加者（住民、組合、団体等）	・各々立場が理解されるための努力 ・行政活動への積極的な参加 ・環境保全の意識が高かった
行　政	・地元行政が主体となる ・柔軟な行政判断（国を含む） ・議論を尽くす（時間をかける努力）
有識者・技術者	・（有識者らの情熱） ・現場を見ながらの議論と情報共有 ・科学的な現状分析 ・プレゼンの工夫（分かりやすい表現） ・意見調整役の存在

「鴨川市海づくり会議」の事例

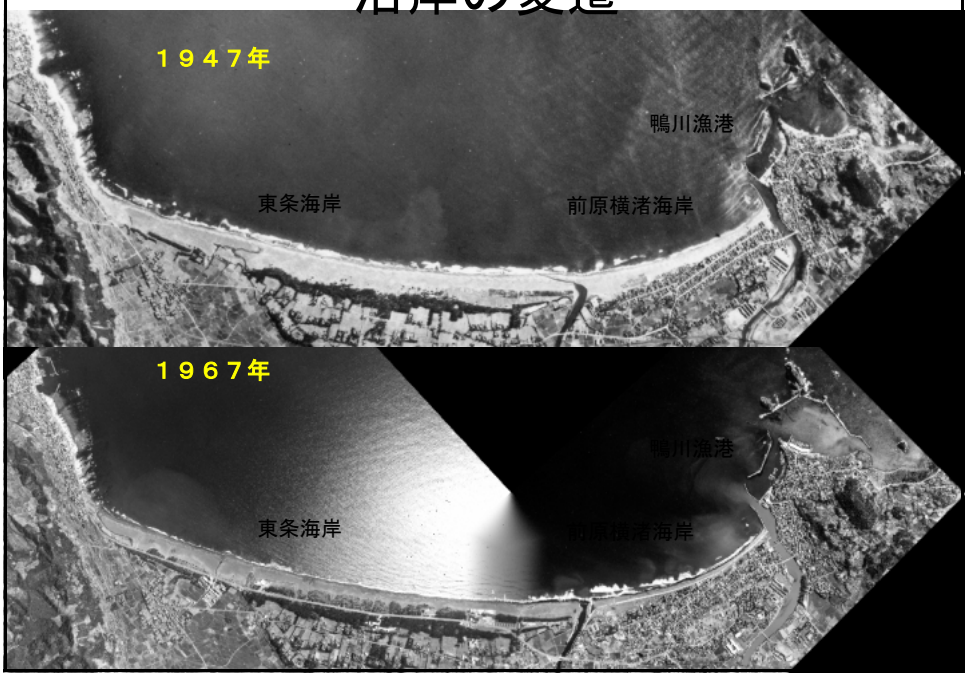


平成9年(1997年) ： 鴨川シーワールド提供

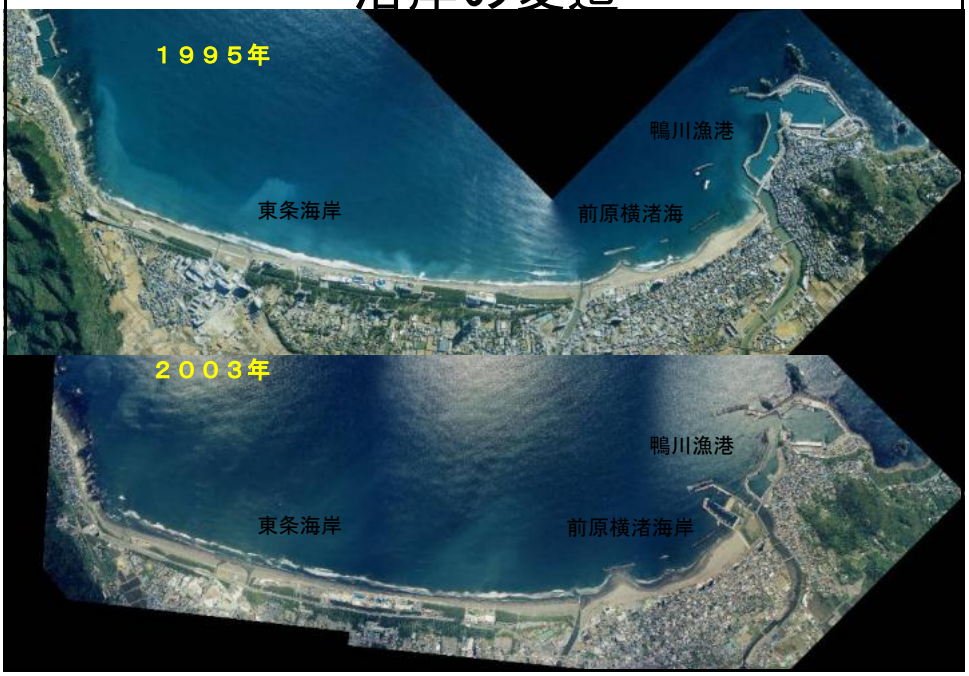
東条海岸の越波被害

平成9年(1997年)

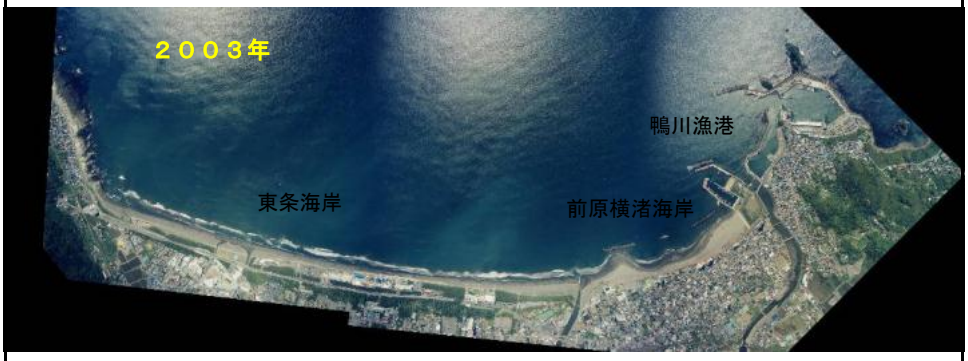
沿岸の変遷


１９４７年
鴨川漁港
東条海岸
前原横渚海岸
１９６７年
鴨川漁港
東条海岸
前原横渚海岸

沿岸の変遷


１９９５年
鴨川漁港
東条海岸
前原横渚海
２００３年
鴨川漁港
東条海岸
前原横渚海岸

鴨川沿岸の課題



侵食の要因：前原海岸離岸堤/鴨川漁港防波堤の建設
→ 侵食が継続すると、越波被害が継続
漁港の課題：港内静穏度が低く、船が係留できない
→ 防波堤を延伸したい → 侵食が拡大する

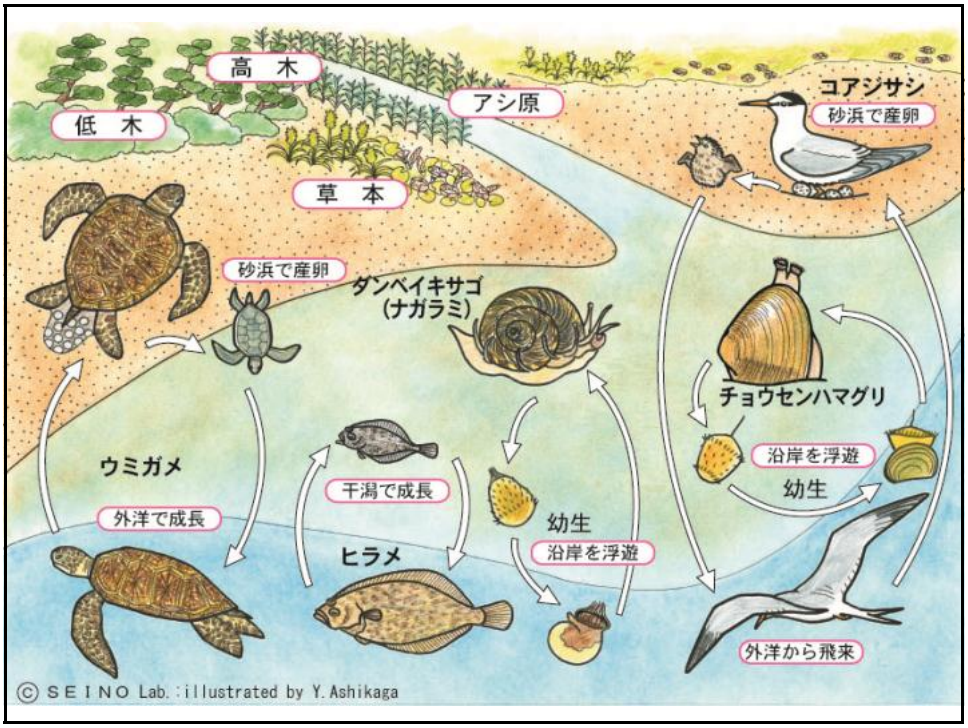
東条海岸の越波対策（嵩上げ）

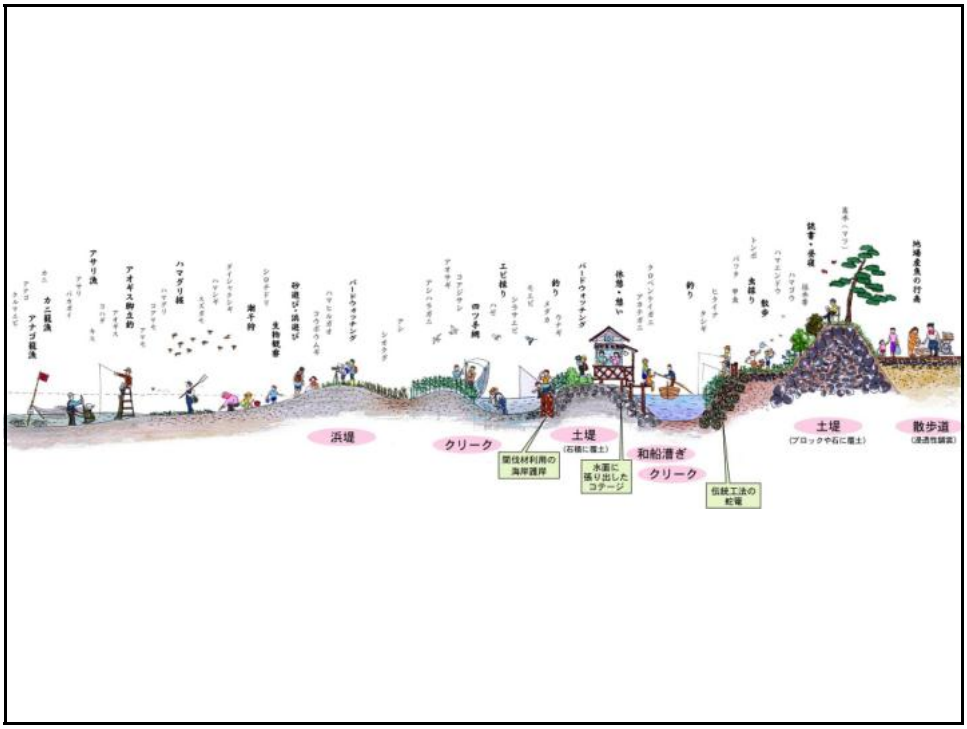
九十九里浜本来のイメージ

白子海岸（H22．4撮影）

白子海岸（H19．7撮影）

栗山川左岸（H20．4撮影）


高　木
低　木
アシ原
草　本
コアジサシ
砂浜で産卵
砂浜で産卵
ダンベイキサゴ
(ナガラミ)
チョウセンハマグリ
沿岸を浮遊
幼生
ウミガメ
外洋で成長
干潟で成長
ヒラメ
幼生
沿岸を浮遊
外洋から飛来
© SEINO Lab. : illustrated by Y. Ashikaga


浜堤
クリーク
土堤
和船漕ぎ
クリーク
土堤
散歩道